

1. 件名「新規基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（181）」

2. 日時：平成29年6月15日 17時00分～18時15分

3. 場所：原子力規制庁 18階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

山口安全管理調査官、津金管理管補佐、皆川安全審査官

（安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付）

堀田統括技術研究調査官、小城技術研究調査官

事業者：

日本原子力発電株式会社：発電管理室 副室長 （他5名）

5. 要旨

（1）東海第二発電所の重大事故等対策の有効性評価（格納容器破損防止対策）のうち、溶融炉心・コンクリート相互作用（MCCI）及び原子炉圧力容器外の溶融燃料-冷却材相互作用（FCI）の対策について、これまでの審査会合及びヒアリングでの指摘事項を踏まえて説明があった。原子力規制庁から、主に以下の点について指摘を行った。

- これまでのヒアリングでの指摘も踏まえて、溶融デブリによるMCCI侵食量評価におけるコリウムシールドの侵食開始温度の設定の考え方について、化学的観点や冶金的観点等を踏まえて整理した資料を提示すること。
- ペDESTAL水の排水機能を担うスワンネックについて、その機能の重要性から信頼性向上策について整理した資料を提示すること。
- リロケーションの徴候を捉える原子炉圧力容器下鏡部温度計について、2つのSA計器の指示値のみを判断に用いている考え方を整理した資料を提示すること。
- ペDESTAL内に設置するとしている気相部温度計について、その計器の役割を踏まえて、自主設備としている考え方を整理した資料を提示すること。
- これまでのヒアリングでの指摘も踏まえて、デブリとして考慮するペDESTAL内構造物の設定の考え方を整理した資料を提示すること。

（2）日本原子力発電から、本日の指摘について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

・東海第二発電所 ペDESTALでの物理現象発生に対する対応方針

・東海第二発電所 ペDESTALでの物理現象発生に対する対応方針（添付資料）